

## 令和3年度の学校評価

本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全校生徒の学力向上【授業最優先・分かりやすい授業の展開】</li> <li>2. キャリア教育とインターンシップの強化</li> <li>3. 挨拶を基本に自立した明るい生徒の育成</li> <li>4. 姉妹校への進学者増</li> <li>5. 授業改革と教員の授業力向上</li> <li>6. ICT教育の実行</li> <li>7. 部活動の活性化と強化及び安全管理と事故防止</li> <li>8. 校内環境の整備</li> <li>9. いじめ防止対策、長期欠席者の迅速な対応</li> <li>10. 教員の生徒募集に関する意識の向上</li> <li>11. 教職員としての意識向上・健康管理、教職員間の信頼関係</li> <li>12. 地域との連携・交流の推進</li> <li>13. 生徒・保護者との信頼関係構築</li> <li>14. 新型コロナウイルス感染症の感染予防</li> </ol>			
担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
教務	・学力向上	基礎学力指導の実施	A	<p>基礎学力向上へ向けて、基礎学力小テストの実施や実力試験(基礎力診断テスト/到達度テスト)の事前指導で学習への動機づけや事前学習に取り組ませることができた。今年度も英単語コンクールと漢字コンクールも実施できた。これにより、生徒にとって学年末試験後の学習への動機づけとなった。</p> <p>教職員の研修として、今年度は「ICT」「アクティブラーニング」「いじめ対策」の教員研修会を実施した。</p> <p>来年度は総合コース・進学コース・フードクリエイティブコースが新設され、また新学習指導要領が施行されることをふまえて、教科主任を中心とした教科単位での授業方法・内容等の共有と確認、全体改善を目指す。</p> <p>保護者対象公開授業は新型コロナウイルス感染防止のため実施を見送った。来年度は状況を判断して可能であれば実施し、保護者に授業を参観して頂く機会を増やし、生徒・保護者・教員が連携してより良い授業・教育環境の改善を目指す。</p> <p>来年度も、スタディサプリを軸としたICT教育と授業アンケートなどのICT活用を促進したい。またロイノートを全学年に導入し、新たなICT教育の可能性を広げる。</p>
		実力試験の有効活用	A	
		学習習慣の定着	B	
	・授業改善の取り組み	研究授業・授業アンケートの実施	B	
		保護者対象公開授業の実施	C	
		校内研修の実施	A	
	・業務の効率化	教科会の活性化	B	
		教務内規等の検討・策定	C	
		手引等書類の充実	C	

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
情報管理	・学内コンピュータネットワークの 運営・保守・管理を行う	ネットワークの保守・管理	A	今年度はネット回線の更新を行い、ネット環境の改善を行った。また学内の無線LANを拡充し、次世代の教育に対応できるようにした。またタブレットの保有台数を増やし、教育環境の整備を行っている。次年度には新しい教務システムの導入や教職員への一人一台タブレットを実現する計画である。配信メールについては新型コロナウイルスにおける情報配信や学校行事に関する情報配信に活用しており、本校としては無くてはならないシステムとなっている。またホームページ上で学校の最新情報を提示することで中学生はホームページから様々な情報を取得して学校選択の判断材料にしており、ホームページも良く活用されていると考える。
		サーバ類の保守・管理	A	
	・情報機器の活用のための ガイドライン・マニュアルの整備を行う	情報機器の保守・管理	B	
		各種ガイドライン・マニュアルの作成、整備	C	
	・既存のシステムの活用および 更新の検討を行う	一斉配信メールの活用	A	
		ホームページの活用	A	
		新規システムの検討・更新	A	
総務	・校内環境の整備	設備・施設の管理・営繕および正しい利用法の啓発	A	収束の見えないコロナ禍の下、校内環境の充実に努めた。現在、各教室に手指消毒液の他、加湿空気清浄機・二酸化炭素濃度測定器・サーキュレータを設置しており、衛生設備には特に配慮している。学習環境においてもWi-Fiの拡充、電子黒板の設置など、ICT環境の整備促進をめざしている。また、SDGsの目標を意識した取り組みとして、ゴミの分別回収(雑紙、資源など)には力を入れており、生徒が理解し実践できるようになってきたと思われる。式典、行事等に関して、今年度は感染予防を第一に、密にならないよう種々の試みを行った結果、校内感染はある程度抑えることができた。ただし、避難訓練に関しては簡単なものしか実施できず、効果的な訓練になっていたとはいえない。今後は、コロナ禍でも実施可能な避難訓練とはどういうものか、考えていく必要がある。今年度の重点項目には挙げていないが、進学する生徒の増加にともない、奨学金の必要性も高まっている。まだまだ生徒や保護者の奨学金に対する理解が不足しているのが現状である。奨学金の種類も増えつつあるので、各種奨学金の情報を発信することと、奨学金利用の方法などを説明する機会を設けることが大切であると考えている。
		校内の学習環境や設備の充実	A	
		環境美化の徹底・美化強化週間の実施	B	
	・安心安全な校内施設の利用啓発	廃棄物の減量とリサイクル意識の向上	B	
		適切な備品・消耗品の調達と修繕	A	
	・経費削減の啓発および具体的な実施	経費節減(省エネ・節約)	A	
		・非常時における危機管理意識の向上	式典の計画・実施及び改善	
	次年度行事予定の見直し・調整		A	
	避難訓練の計画・実施	B		

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 進学への意識付け</li> <li>• 進路未定者の減少</li> <li>• 姉妹校への入学者増</li> <li>• 正社員雇用内定率の向上</li> </ul>	各学年に適した進路ガイダンスの実施	B	<p>インターンシップは、今年度スポーツコースの生徒が参加したことにより、本校のすべてのコースの生徒が実施するという実績が作る事ができた。また、アクトコースの生徒が、インターンシップを実施した事業所に就職を決めるなどの実績を作ることもできた。生徒に対する担任の面談は、各担任の先生方の努力により、実施されている。厚生労働省の職業レディネステスト(1年)、職業適性検査(2年)が実施され、教務部によるリクルートの適性検査も含めて、複数回の実施となっている。保護者への進路情報の提供としては、2学年の協力のもと、保護者会時に、2学年の全家庭に対して、『進路計画』(奨学金等の情報誌)を配布することができた。大学入学者選抜の入試内容について、ベネッセハイスクールオンラインから、他校生徒の入試報告を閲覧し、希望生徒に情報提供をすることができた。総合的探究の時間に、『進路の手引き』を使ってワークシートをするなど、学年独自の取り組みも実施された。キャリア教育では、3年スポーツコースが、外部講師を招く取り組みを、多彩に展開した。姉妹校への進学は、名古屋産業大学へは昨年に比べて半減し、経営短期大学とNWFBへは昨年と同じくらいであった。夏の保護者会時には、姉妹校ブースを設けたものの、姉妹校特典の周知不足もあり、入学数を伸ばすことができなかった。コロナ禍の影響もあり、就職者数の減少が見られた。また、看護医療系に進みたいという生徒が増えており、その支援は今後の検討課題である。</p>
		『進路の手引き』など内部・外部の情報誌を有効活用	A	
		保護者対象進路説明会や保護者会などで家庭への進路情報の提供および姉妹校入学の特典の周知	A	
		職業観を高めるためのインターンシップの実施	A	
		進路を考える材料としての適性診断の複数回実施	A	
		キャリア教育の推進	A	
		入試改革に向けた情報の提供	A	
		変化する進路情報の提供	A	
各学年一人当たりの担任による複数回の個人面談の実施	A			

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の円滑な運用および主体的参加者の増加</li> <li>・生徒会活動と各委員会の活性化</li> <li>・部活の活性化</li> <li>・ボランティア活動の推進</li> </ul>	コロナ禍での学校行事の在り方を考えるとともに、より多くの生徒が学校行事に主体的に参加することを目指す。	A	<p>コロナ禍での学校行事の在り方を見直し、オンラインによる文化祭の実施を行うことができた。それに伴うオンライン機材としてのipadの購入と生徒が校内で使用出来るipadの活用行うことができた。</p> <p>また、3年生を送る会ではまん延防止により中止となるものの、生徒会が在校生を代表して、思い出のスライドショーと3年生の担任の先生のメッセージビデオを卒業生にプレゼントすることができた。</p> <p>また、予算管理を徹底することで無駄な経費を削減し、必要などころへの投資を執行することが出来た。今後はこれを継続し、よりよい予算の活用を検討することが課題である。</p>
		週一回の生徒会定例会と、生徒会新聞の発行による情報発信と生徒会研修生・実行委員の積極的な育成と生徒による自治組織の運営	A	
		持続可能な部活動への予算配分による部活動の活性化	A	
		あいさつ運動や校外美化清掃やボランティア活動への参加	C	
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に菊華高等学校生であることを自覚し、行動できる生徒を育てる</li> <li>・交通安全指導の充実</li> <li>・正しい倫理観や道徳観を身につけ「社会に役立つ人材」の資質を身につける</li> </ul>	挨拶の励行、ルールへの遵守、基本的生活習慣、安全指導等、生徒の社会性の向上を図る	A	<p>生徒指導については、生徒・保護者の抱える課題が多様化し、個別的な問題も増えて苦労も多いが、各先生方が粘り強い取り組みをされていることは評価される。ウイレス禍によって家庭環境も含めて生徒を取り巻く状況には大きな変化があり、今後もきめ細やかな対応が必要になる。</p>
		自他の権利を理解し、お互いに思いやり共生する心の育成	A	
健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の健康観察</li> </ul>	保健室の利用状況の把握	A	<p>今年度は、新年度から緊急事態宣言中だったこともあり、検診日の変更しての対応、学園内でのワクチン接種、第6波による保健所の逼迫時には保健所と連携強化することができ、生徒や教職員への対応を行い、感染予防対策、早めのクラスター予防対策を行った。また、保健室利用状況を把握し、担任、学年主任との情報共有を密にし対応することができた。</p> <p>カウンセラーの先生とも、保健室来室で特に必要と判断した生徒を繋ぐことができた。</p> <p>次年度も引き続き、感染対策には配慮し自粛し減っている行事等が行えるよう取り組んでいきたい。</p>
		新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について	A	
		カウンセラーの活用	A	

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
渉外	・募集定員の入学者数(特に推薦受験者数)確保	新コースを中心に、各学科・コースの入学者数および推薦受験者数の増加	A	今年度は、新しく学科・コースをリニューアルしたこともあり、昨年度よりも推薦受験者数の大幅な増加や一般受験者数の増加があった。その要因としては、やはり尾張旭市・瀬戸市・春日井市・守山区・北区を中心とした、近隣協力校からの受験者数増加があったためである。しかし、全体の募集定員を確保できたことは嬉しいことだが、既存のコースごとの定員を確保できなかったコースがあることは、今後の課題である。また、一般入試での歩留まりが厳しくなっているため、ホームページやパンフレット等募集アイテムのさらなる充実と体験会等の行事での教育内容や学科・コースのPR活動が必要であり、行事の参加者数および受験・入学者数増が必要である。今年で3年目になる特別専願入試を実施したことにより、入学者数確保も可能であるため、今後も継続して実施していきたい。
	・募集アイテムの充実	認知度を高めるため、ホームページの充実を中心に学校紹介リーフレットと学校案内パンフレット等の充実および活用(各学科・コースのPR強化)	A	
	・渉外行事の充実	体験会・説明会等の行事への参加者数増加および満足度の上昇からの受験者数増加	A	
いじめ防止対策	・日常の観察	アンテナを高く持ち問題を感じたら、学年主任へ報告。学年で問題を精査し、必要であれば、いじめ防止対策委員会へ報告	A	昨年に引き続きコロナ禍で多くの学級閉鎖があったりする中で、毎週の運営委員会で気になる生徒の現状報告会を持ち、いじめに発展しないように協議を重ねた。各学年がしっかり動き、連絡を密にし、大きな問題になることはなかった。
	・問題の緊急性に関する対応	激しい誹謗中傷、暴力など早急な対応が求められる事案に関しては、即いじめ防止対策委員会を招集し、対応を協議	A	
	・アンケート、スクールカウンセラーの活用	問題の全貌を知るためにアンケートやクレペリン等を実施したり、スクールカウンセラーとのカウンセリング活用で被害者、加害者共、心のケアにつとめる	A	
事務	・サービス部門と位置づけ、内部・外部に対しサービス精神をもって業務に取り組む	電話・来客対応を通して学校のイメージ向上の貢献 内外に対する親切で行き届いた対応	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話、来客対応等については、常に迅速かつ丁寧な対応を心掛けることができた。</li> <li>・教員と事務職員との間で、相互に連携協力できるよう努めた結果、大きなトラブルは発生しなかった。</li> <li>・公的補助金については、生徒に対する就学支援金・授業料補助金はもとより、コロナ対策、ICT関係の補助金の獲得に努めることができた。</li> <li>・令和3年度予算については、コロナ対策を推進するため、国・県の新規補助金を獲得できるよう学園本部との緊密な連携を図り、予備費の活用等の臨機応変な対応をとることができた。</li> <li>・校費等の出納業務については、正確性の確保を重点として取り組むことができた。</li> <li>・積立金管理については、学科別・コース別・個人別に管理しているため、個々人の状況に応じて事務処理が複雑となるが、的確に対応することができた。</li> </ul>
	・事務室と職員室との連携と相互協力	確実な情報伝達(ホウ・レン・ソウ)をモットーに、組織のスムーズな運営への寄与	A	
	・公的補助金の獲得の最大化	就学支援金・授業料軽減等の対象生徒の申請100%達成 補助金制度に精通し的確な申請にて取り漏しを防ぐ	A	
	・予算管理における的確性	学園全体の制約の中で、十分に学校経営に応える予算立案及び運用管理	A	
	・出納業務の標準化・効率化	校費・PTA・後援会・同窓会等の申請・出納・実績管理の標準化・効率化	B	
	・積立金管理についての個別対応と正確性	学科別・コース別・個人別と推移する中で、如何に効率化するか	A	

【評価基準】 目標の達成率 A:80%以上 B:60%～79% C:40%～59% D:40%未満